

幼少期からの長期外用治療と全身症状を経て検査値を追いながら治療を続けた成人アトピーの経過
(38 歳 成人)

症例 ID : 001-30-TS4 | 記録日 : 2017 年 6 月 2 日

1. 診断・治療前経過

幼少期から皮膚症状があり、フルコートを使用していました。20 歳を過ぎて顔面湿疹が出た後、皮膚症状は全身へ広がりました。複数の医療機関でステロイド外用薬、プロトピック、抗アレルギー薬などを使用しました。
薬を使用しても数日しか軽減せず、昼夜逆転と引きこもりがちな生活となりました。自己判断でステロイドを中止した後、松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	幼少期から複数のステロイド外用薬を長期使用し、プロトピックと抗アレルギー薬も使用しました。
製品名	フルコート、キンダベート、リンデロン、プロトピック、アレロック、その他。
強度	複数の強度を使用しました。
使用期間	幼少期から受診前まで長期間使用しました。
中止時期	松本医院受診前に自己中止しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
幼少期	発症・外用開始	皮膚症状に対してフルコートを使用しました。
20 歳以降	顔面症状	顔面の小さな湿疹から全身へ症状が広がりました。
複数医療機関受診	薬剤増加	複数のステロイド外用薬、プロトピック、抗アレルギー薬を使用しました。
受診前	生活への影響	薬の効果が短期間となり、昼夜逆転と引きこもりがちな生活になりました。
自己中止後	治療変更	ステロイドを自己中止し、松本医院を受診しました。
治療中	経過観察	全身の皮膚症状とリバウンドを経験しながら治療を続けました。
長期経過	検査値の記録	総 IgE、LDH、特異的 IgE、TARC、白血球分画の推移を継続して記録しました。
2017 年 6 月	経過中	症状を残しながら治療を継続していました。

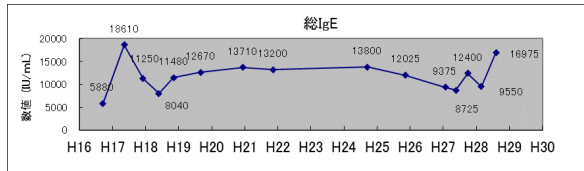
4. ピーク時期

ピークは、顔面から全身へ湿疹が広がり、外用薬の効果が数日しか続かず、昼夜逆転と引きこもりがちな生活となった時期です。

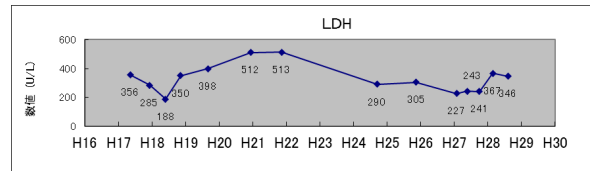
5. 困りごと

- ・全身の皮膚症状により外出や生活リズムが崩れました。
- ・複数の医療機関と治療法を試す必要がありました。
- ・治療中もリバウンド症状が続きました。

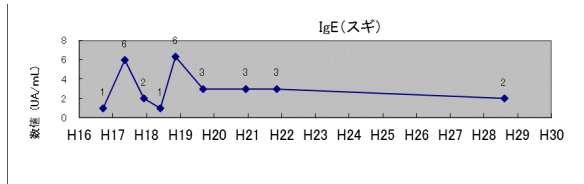
6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



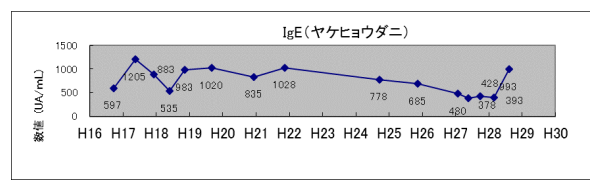
総IgEの推移。



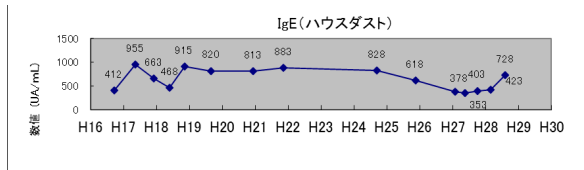
LDHの推移。



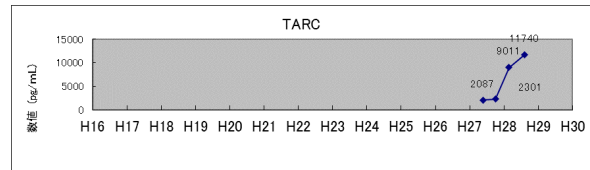
スギ特異的IgEの推移。



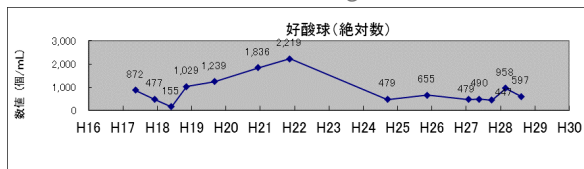
ヤケヒョウダニ特異的IgEの推移。



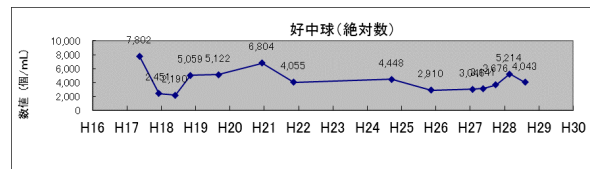
ハウスダスト特異的IgEの推移。



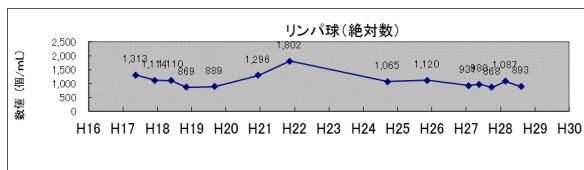
TARCの推移。



好酸球絶対数の推移。



好中球絶対数の推移。



リンパ球絶対数の推移。

7. 経過のまとめ

幼少期からの長期外用治療後に全身症状が強くなり、生活リズムにも影響しました。治療変更後は、総IgE、LDH、特異的IgE、TARC、白血球分画の推移を確認しながら治療を継続していました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。